

ろじマチ通信



災害に備えよう！

地震への備え。できることから始めよう。

熊本地震発生から1週間後、京都市が実施する被災地支援の一環として、まち再生・創造推進室の職員が、熊本県で被災建物の応急危険度判定に従事してきました。応急危険度判定とは、被災した建物の危険性を判定・表示することで、人命にかかわる二次的災害を防止するものです。

現地では、多くの建物が倒壊するとともに、屋根瓦のズレや柱の傾き等により立ち入ることが危険と判定された建物が数多くありました。それらのほとんどは、**古い木造住宅など耐震性が低いと思われるもの**でした。また、**ブロック塀の被害**も目立ちました。いたるところでブロック塀が道路側に倒れ、実際、そのために一人の方が亡くなっています。

この規模の地震が京都で起こったら…。密集市街地を中心に相当な被害となり、火災の拡大も心配されます。今一度、身の回りを点検し、**建物の耐震化や感震ブレーカーの設置、ブロック塀の改善等**、地震に備えてできることから取り組みましょう。それが、ご自身、そして周囲の方々の命を守ることに繋がります。

→熊本地震の被災状況



密集市街地で耐震改修の補助金が上乗せされます！

京都市では、様々な支援制度を設け、木造住宅の耐震化を進めています。

平成28年4月からは、密集市街地の安全向上を図るため、防災まちづくりに取り組む密集市街地において、耐震化とあわせて一定の防火対策（外壁や窓の防火改修、感震ブレーカーの設置等）を行う場合に、**補助金が上乗せされることになりました**。また、昨年度同様、平成28年度は、ご自宅の**耐震診断を無料**で受けることができます。

詳しくは、下記までお問い合わせください。



地域みんなで取り組む 防災まちづくり計画

京都市では、密集市街地の安全向上に向けて、「優先的に防災まちづくりを進める地区」を中心に、地域の方々との連携のもと、防災まちづくりの取組を進めています。

この度、平成25年度に取組を開始した^{しょうらん}翔鷹学区と^{すざく}朱雀第二学区が、3年間の活動を踏まえ、今後の方針や取組内容を示した^{しょうらん}防災まちづくり計画をそれぞれに策定され、京都市長から「路地・まち防災まちづくり計画」として認定を受けました。

両学区では、今後も、これらの計画に基づき、まちの安全向上に向けた取組を継続することとしています。

翔鷹学区での意見交換の様子→



しょうらん 翔鷹学区 (上京区)

翔鷹学区防災まちづくり協議会

翔鷹学区は、北野天満宮や上七軒など多くの歴史資産を有し、西陣織でも有名な地域です。その一方、古い木造住宅が密集し、行き止まりや狭い道が多く見られるのが防災上の課題といえます。

これまで、防災まちあるきと意見交換を合わせて実施する^{まちとすまい}の安全点検を13のブロックごとに開催するほか、**ブロック塀の改善**や**袋路への避難扉の設置**等の対策を行ってきました。



まちとすまいの安全点検の様子

翔鷹学区防災まちづくり計画

目標 翔鷹の歴史を大切にしながら、災害に強く、暮らしやすいまちをつくる

将来にわたって愛着あるまちで暮らせるよう、地域のみんなで災害に強い建物、みち、まちをつくります。

全体計画

主要な道路やエリアを位置づけ、沿道の耐震化・不燃化等の対策を方針化。



ブロック別計画
路地や町内単位で、**2方向避難の確保**や**オープンスペースの確保**等の対策を示しています。



対策例：
ブロック塀の改善

地域からの声

“3年前から協議会、地域住民、市役所が協力して学区内をくまなく見てまわり、意見交換を重ねてきました。結果、路地奥にある空地の**防災ひろば**への**整備**や、**危険なブロック塀の改善**等が実現し、それらも踏まえて防災まちづくり計画を策定しました。観光名所が多く賑わう反面、防災面では弱みを持つ地域でもあります。同じ問題を有する地域の道しるべとなるよう、今後もがんばっていきます。”

翔鷹学区防災まちづくり協議会 鶴川 健 会長

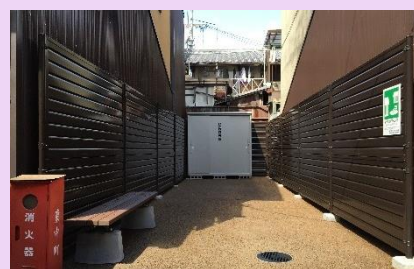


すざく 朱雀第二学区 (中京区)

朱雀第二学区自主防災会

朱雀第二学区は、かつては平安京の中心部の地域で、現在は大通り沿いに公共施設や店舗、マンション等が見られます。しかし、一步入ると**古い木造住宅が密集し、行き止まりや狭い道が多く見られるのが防災上の課題**といえます。

これまで防災まちあるきや意見交換会で課題を把握・検討するとともに、**京都市1号となる防災ひろばの整備**(※)等の対策を実施しながら計画を策定しました。



整備された防災ひろば
※ろじマチ通信 vol.2 でも紹介しました。

朱二学区防災まちづくり計画

目標 地域のチカラで安心なまちを創る

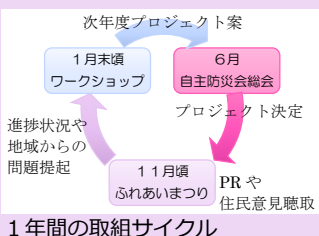
地域住民一人ひとりの防災意識を高め、支え合うことのできるコミュニティのチカラで、道や建物、まちの対策に取り組みます。

防災プロジェクトとその進め方

具体的な取組を進めるため、8つの防災プロジェクトを掲げました。年度始めに取り組むプロジェクトを決め、1年間の学区の活動サイクルに合わせて地域一丸となって実践していきますように計画されています。

プロジェクトの例

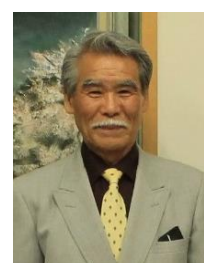
- ・集合場所への銘板設置プロジェクト
- ・安全に避難できる、みちのマナー向上プロジェクト 等



地域からの声

“防災まちづくりを始めて、学区内が整備されていない現状を目の当たりにしました。以前から避難所運営マニュアル策定等にも取り組んでいましたが、それらは**防災まちづくりでまちを安全に整備してはじめて生きてくるのだ**と気づき、防災まちづくりにも力を入れて取り組んできました。今後は防災プロジェクトでさらに対策を進めるとともに、他の地域と情報交換や交流をする機会も作っていきたいです。”

朱二学区自主防災会 北川 惣太郎 会長



SHU-NI



防災まちづくり計画とは

まちの安全向上を図るには、短期間で解決できるものもあれば、関係者の合意を得ながら、腰を据えて取り組まなければならないものもあります。また、その基礎となるのが日頃のコミュニティ活動です。学区ごとの状況や事情に応じ、防災まちづくりを継続的に進めるための方針や取組内容を示したものが、防災まちづくり計画です。計画は、概ね以下の流れを経て策定されます。

取組開始

- **防災まちあるき** 地域の課題や魅力を現地で確認します。
- **防災まちづくりマップ作成** 防災上の課題や災害時の集合場所等を明記し、地域で配布します。
- **アンケート調査** 地域の皆さんの意見を集めます。
- **計画策定のための意見交換会** 住民同士で意見交換しながら検討します。

防災まちづくり計画策定

市長が計画を認定します。

翔鷹学区・
朱雀第二学区の
認定式の様子



計画実現を目指し、取組を継続

←朱雀第二学区でのまちあるきの様子

防災まちづくり プロジェクト 実施報告

平成27年度に防災まちづくり計画を策定し、京都市の認定を受けた六原学区と仁和学区。

今回紹介するプロジェクトは、計画の具体化に向け、地域の方々の思いを形にされたものです。それぞれのプロジェクトの実現を機に、さらなる取組を進めていくこととされています。

「みんなでつけよう ろじのあいしょう」プロジェクト

六原学区には約90の細街路（幅員4m未満の道）があります。その大半は名前がなかったため場所が特定しづらく、災害時の初動の遅れが懸念されていました。また、同じ町内会でも細街路に入ったことがない人が多く、災害時の逃げ道が十分に把握されていないことも課題でした。

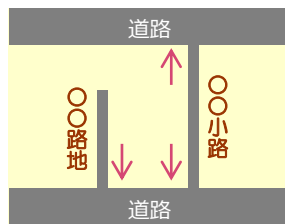
そこで、町内会ごとに細街路の名前を考え、地域特性を活かした陶器製の銘板を作成・設置しました。名前は大きく「**路地＝袋路（行き止まり）**」「**小路＝2方向避難可**」に分けたことで、知らない道でも避難できるかどうかわかります。このプロジェクトを通じて、地域への愛着と理解を深める機会となり、防災に不可欠な地域コミュニティの強化にもつながっています。



銘板が設置された路地



設置の様子



名付けルール

六原学区（東山区）

地域集合場所掲示板設置及び 避難路地バリアフリープロジェクト

仁和学区では、学区の防災上の課題を解決するため、2つのプロジェクトを実施しました。

①地域の集合場所への看板設置

地震等が起きたら、まずは**地域の集合場所**に集まり、安否確認のうえ、状況に応じて救出・消火活動を行います。

この集合場所の周知と住民の防災意識向上を図り、計69枚の看板を作成しました。地域の皆さんの協力を得て、わかりやすい位置を検討し、お地蔵さんや民家の壁面等に設置しました。



お地蔵さんに設置された看板

②避難経路上にある段差のバリアフリー化

学区全体が地形的に傾斜しており、路地にも階段や段差が複数見られます。安全に避難できるよう、手すりやスロープを設置しました。



手すりを設置した階段

地域からの声

“名前が決まる経緯は様々で、中には商標に抵触するアクシデントも！その過程で苦労した分、愛着が湧きました。銘板設置後は、早速細街路を名前で呼んでくださる方や「あちらの名前も素敵」なんて声も聞こえます。

今後は、このプロジェクトの趣旨とともに地域へ浸透させ、地域で防災を考える材料にしていきたいです。消防や警察とも連携し、この名前での通報に対応できる体制の整備やマップ作り等の活用を考えています。”

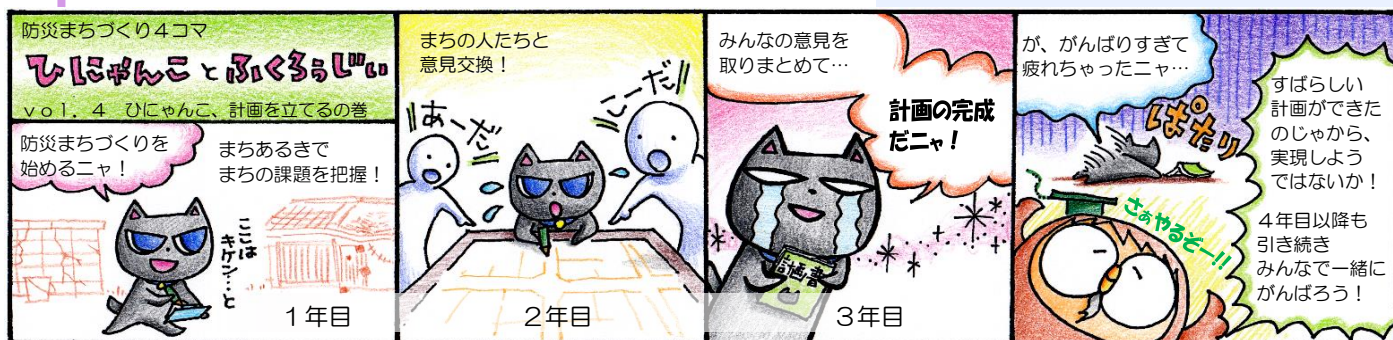
六原まちづくり委員会
プロジェクトリーダー
本多 智一さん



“看板は、設置場所の関係者のご理解を得るのに苦労する場面もありましたが、これまでの取組 PR が功を奏し、協力を得やすかったです。バリアフリーは好評で、「こちらの道もやってほしい」という声も。住民が防災について意識し、発言するきっかけになりました。

今後は、まちの再点検をして必要な対策に取り組むことで、安全を確保しながら住みやすいまちの実現を目指します。”

仁和学区防災まちづくり協議会 上岡 修 会長



＜お問合せ・ご相談はこちらまで＞

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室（密集市街地・細街路対策担当）
TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物
第284267号
平成28年6月発行

→バック
ナンバー
はこちら



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

